



もうすぐ 運動会

校長 川原 令子

グラウンドのポプラが、五月の風にゆれています。

グラウンドに響き渡る応援合戦の声、団結ランチ、色団ごとの朝のあいさつ運動、グラウンドや前庭の草むしりなど、運動会に向けて様々な活動が展開されています。特に今年は、「創校 50 周年記念運動会」として、各学年の遊走や団競には、創校 50 周年を祝う工夫が凝らされています。子どもたちの日ごろの練習の成果をご覧ください、どうぞ大きな声援をお願いします。

今年の児童会スローガン

立ち向かえ西部っ子!! 努力の成果が勝利のカギ

団 長 から の 一 言

赤団団長（6年 野澤 虎壱さん）

赤団が絶対優勝できるように、一生懸命がんばります。

白団団長（6年 鋤田 嵐士さん）

白団が優勝できるように、一生懸命がんばります。

青団団長（6年 横山 春樹さん）

青団全員が力を合わせて、優勝できるようにがんばります。

黄団団長（6年 松井 渉太さん）

黄団が優勝できるように、みんなで協力をしてがんばります。



団結ランチ 5 / 16

運動会は、体育学習を中心とした平素の学習を総合的に発表する場ととらえています。練習や競技に取り組む中で、進んで運動する意欲を高めたり、集団行動や係活動を通して、自分の役割や責任を果たし、自主的で規律ある行動をしようとする態度を育てることが大きなねらいです。勝敗にこだわることも大切かもしれませんが、一人一人の子どもが、どんな目当てをもって運動会に臨み、どんなふう努力し、どのような成果が生まれたのか、どんな力が育ったのかを大切にしていきたいと思えます。お子さんの、運動会への意気込みや、目当てをぜひ聞いてあげてください。そして、運動会が終わったら、お子さんの頑張りを認め、言葉で伝えてあげてください。

私は、運動が苦手な、運動会が大嫌いでした。雨が降って中止になればいいと、子どもの時はいつも思っていました。しかし、校長になった今は、雨が降らないようにと願っています。これから、大きくなって坊主を作って、校長室にぶら下げます。

保護者の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様、大勢の皆様のご来校をお待ちしています。





いのちの大切さ

家庭で話し合ってみようと呼びかけました。「自分のいのちを大切にすると、どうということ？」「友達のいのちを大切にすると、どうということ？」いのちの大切さということを見つめ直すことが、亡くなられたお子さんからの、私たち教員や西部っ子への大切な宿題だと思います。子どもたちには、考えたことを自分の言葉で表現してみしてほしいと伝えました。

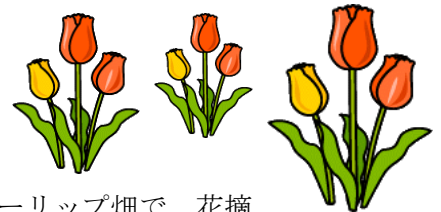
《子どもたちのノートから》

- ・お父さんとお母さんの愛情を受けてぼくは生まれました。ぼくのいのちも、みんなのいのちも、いろいろな人からの愛情をいっぱい受けています。だから、1つのいのちがなくなることは、とても悲しいことです、たくさんの方が悲しみます。ぼくの今あるこのいのちの限り、いろいろなことに挑戦してがんばることが大切だと思います。(6年 S男)
- ・私は最初、「いのち」とは何かということから考えました。考えて分かったことは、1つ目は、いのちの一つしかない「もの」だということです。人形は腕が取れたら包帯で治せる「物」です。でも、いのちはなくなったらなおせない「もの」なのです。これを、1年生の男の子は教えてくれました。2つ目は、いのちは大切だということです。たった6歳で私より小さな短い時間しか生きられなかったけど、最後まで病氣と闘ってあきらめなかったことがすごいです。これからも、いのちの大切さを学んでいきたいです。(6年 Y子)
- ・健康でいられることが、とても幸せなことなんだということが分かりました。1年生のお友達は、死にたくて死んだんじゃないから、今生きていることがとても幸せだと思います。(4年 R子)
- ・ぼくは、いのちはお金で買えないとても大切なものだと思います。いのちはとても大切なものだと教えてくれたんだと思います。とても悲しい気持ちです。(4年 S男)

今年度は、様々な場面で、いのちの大切さにふれる「いのちの授業」を重点的に取り入れていきます。東京大空襲を体験された方、いのちをテーマに取り上げていらっしゃる絵本作家や助産師さんなど外部講師を招聘したり、道徳の授業を充実させたりしていきます。いのちの大切さを子どもたちが実感できる授業や講演・体験を通して、たった一つしかないいのち、たくさんの人から祝福されて誕生したいのちについて学ばせていきます。その都度、子どもたちの感想などをお知らせしていきます。家庭でも、機会あるたびにお子さんと話し合ってみてください。



チューリップの花摘み体験 (5年生)



5月6日(金) 5年生が、戸出竹のチューリップ畑で、花摘み体験をさせていただきました。チューリップを生産する竹田さんから、摘花方法を聞き、真っ赤なチューリップの花の摘み取り作業を行いました。

今日、チューリップの花摘み体験をさせていただきました。たくさんのチューリップを集めてとても楽しかったです。初めてこんなにたくさんのチューリップをつみました。1時間で約5万本ものチューリップを摘めたのだと知り、とてもびっくりしました。今まで、こんなにたくさんのチューリップを育ててくるのは大変だったろうなと思いました。これからも、この戸出の文化を大切にしていきたいです。